

バス停タイムス

2018年2月1日

No.44

発行者

成田隆浩

編集者

教宣部

JR東海労働組合新幹線地方本部

SMT会社で労災発生!

2018年1月19日、SMT 大井日勤事業所で労働災害が発生しました。

第二検修庫で作業の移動中に、サービスデッキの凸凹の段差につまずいて階段から転落し、骨折という大怪我を負いました。全治3か月ともいわれており、とても痛ましい傷害事故となりました。

検修庫の設備老朽化の放置が根本原因だ!

では今回の労働災害はなぜ発生したのでしょうか？会社は「作業の移動中に段差につまずいて…」「足下に意識して、労災撲滅を…」とあたかも負傷した本人の不注意が原因のごとく描き出そうとしていますが全く違います。真の原因は検修庫の老朽化にあります。このようなJR東海会社とSMT会社の姿勢では労災はまたいつ発生してもおかしくないとは思いませんか！

私たちJR東海労は毎年、職場改善諸要求の中で、検修庫の老朽化に対する早期改善を訴えてきました。しかし、会社は「その都度適切に対応している」「優先順位をつけて修繕している」などとその場限りの誠意のない回答を繰り返してきました。その無対応が今回の労災発生につながったといえます。

私たちJR東海労は会社に対して、無対応を反省して労災の再発防止のために早急に検修庫など会社施設の一斉点検実施と対策を求めて申し入れを行いました。

今こそ労働組合の存在意義を示そうではありませんか!

昨年の体制見直しから、SMT会社の労働条件はますます悪化しています。日勤では遅出勤が生活パターンに合わず退職を余儀なくされた方や、夜勤でもベテランの従業員が多く辞めているといえます。劣悪な労働条件を改善することが離職率の改善につながり安定した働きがいのある職場につながります。

リニア中央新幹線建設のために我慢しろ!というのであれば本末転倒です。今回の労災についてJR東海とSMT会社は、施設管理責任者として謙虚に受け止め、安全衛生配慮義務を果たし、責任をもって対策をとるべきです。

労災のない安全な職場にするために、声を出そうではありませんか!

のぞみ34号事故！脱線の可能性も！

台車枠は破断寸前！JR東海にも問題あり！

皆さん記憶に新しいと思いますが、昨年12月11日、のぞみ34号の台車枠に亀裂が生じるという重大な事故が発生しました。これは博多を発車してから車両の異常『異音、異臭、モヤ、振動など』が確認されているのも関わらず、名古屋駅で運転中止となり台車の亀裂が発見されるまでの3時間、何もなかったかのように通常のスピードで走行したのです。のちにJR西日本の発表で、台車枠に亀裂が発生していて、あと3cmで台車は破断寸前で、脱線の恐れもあったということが明らかになりました。

今回の、のぞみ34号の台車枠亀裂発生事故は、国の運輸安全委員会から深刻な事故につながりかねない「重大インシデント」に認定され、調査が行われています。

JR西日本の対応に批判が集まっていますが、JR東海の対応にも多くの問題があります。JR東海エリアに引き継いだ新大阪駅において、なぜ床下点検しなかったのか。京都駅出発直後にも異臭を確認していたにも関わらず、なぜ米原駅で止めて点検せずに名古屋駅まで走行させたのか。などなど、「安全最優先」とはとていせん。



(写真は JR 西日本発表記事より)

在来線特急列車でも台車部品に亀裂発生！

1月21日には、JR東海・紀勢本線で在来線の特急列車の台車部品・軸箱体に亀裂が発生していたことが明らかになりました。

連続したこれらの事象はいったい何を意味しているのでしょうか？現在の検査体制、効率化施策、特に検査周期延伸などの影響はないのでしょうか！？

のぞみ34号事故で緊急申し入れ！

今回の事故に対して、労働組合としてしっかりと向き合い、チェック機能を果たすべく新幹線地本は12月21日に緊急申し入れを行いました。

原因究明と万全な対策を！ 各級検査の周期短縮を！ 余裕ある検査体制を！

連絡先(新幹線地本)	〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5	TEL03-3201-0350
ホームページアドレス	http://www.geocities.jp/jrcushinkansen2/right.html	
メールアドレス	jrcushinkansen@yahoo.co.jp	